

がん再発予防に向けての免疫力とサプリメントの研究

永山 在明
福岡大学名誉教授



国の統計によると、わが国では毎年約 67 万人（2005 年）が新たに癌と診断される。この数字は高齢化社会をむかえ、今後も増加する見込みである。癌は深刻な病気である一方で、このように患者数が多く、我々にとっていつ罹患しても不思議ではない身近な病気とも言える。一方で、癌の 5 年生存率は現在約 50% であり、早期発見や治療技術の進歩によって、半数の方は癌を克服できる時代になったとも言える。しかし、手術が成功しても癌は一定の割合で再発し、また癌の種類によっては 5 年経過後であっても再発率が比較的高い癌種もある。そのため、仮に手術などで治療が成功しても、患者の多くはその後再発の不安を抱えた生活を余儀なくされ、そういった方はかなりの人数いると考えられる。このような中、多くの患者が再発を予防するためにサプリメントを摂取したり、免疫力を高めるために補完代替医療を取り入れている現実もある。

しかしながら、これまでのところ、再発予防に向けての免疫やサプリメントの研究並びに患者への情報提供は十分とは言えない。そこで我々は、癌の再発予防のための必要な免疫力、再発予防のための免疫力に対するサプリメントの作用について、臨床研究を進めてきた。本セミナーでは、以下のポイントを中心にして、これまでに得た研究データを報告するとともに、再発予防に向けての免疫やサプリメントの考え方についても、紹介したい。

●がんに対する免疫力とは何か？

我々はまず、癌治療中の患者を対象に様々な免疫指標の推移と予後との関連を調べた。その結果、従来から知られている NK 活性やインターフェロンガンマなどの免疫活性化指標だけでなく、インターロイキン 10 などの免疫抑制因子や免疫抑制細胞が、実際の患者の免疫力を反映していることがわかってきた。

●がんの再発予防に免疫力はどう関係するのか？

次いで、治療後経過観察中の患者の免疫力を測定したところ、健常者に比べて経過観察中の患者は、癌治療中の患者と同様に、免疫力が低い状態であった。つまり、治療が成功した後も、しばらくは患者の免疫力は低く、この低下した免疫力を回復させることが、再発予防に重要であると考えられる。

●がんの再発予防にサプリメントはどう作用するのか？

我々の研究では、治療後経過観察中の患者に担子菌類（キノコ類）を摂取させたところ、20 週間の摂取後に免疫力が健常者レベルに回復した。特にシイタケ菌糸体エキスを強い作用が観察された。このように、サプリメント成分には、継続して摂取することで、治療後経過観察中の患者の免疫力を

回復させるものがあるといえる。また、低下した免疫力を回復させることは、がんの再発予防につながると考えられる。

当日は、実際の症例・臨床データや基礎的なデータも交えて、上記について詳説する。また、「がんの再発予防にどのようなサプリメントを選ぶべきか？」という疑問に応えるために、これまでの治療中及び治療後経過観察中の患者を対象にした研究データと患者と向き合ってきた経験に基づいた私見を述べたい。

プロフィール

昭和 3 7 (1962) 年	九州大学医学部医学科卒業
昭和 4 2 (1967) 年	九州大学医学研究科博士課程単位取得後退学（修了） 医学博士
昭和 4 2 (1967) 年	九州大学助手（医学部細菌学講座）
昭和 4 3 (1968) 年 7 月～	昭和 45 年 (1970) 3 月 アメリカ ニューヨーク市公衆衛生研究所研究員
昭和 4 5 (1970) 年	九州大学助教授（歯学部口腔細菌学講座）
昭和 5 3 (1978) 年	佐賀医科大学教授（医学部微生物学講座）
平成 元 (1989) 年	福岡大学教授（医学部微生物学講座 ＊後に微生物・免疫学講座）
平成 2 0 (2008) 年	福岡大学名誉教授

共催：小林製薬株式会社